

■福祉心理学科カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 多文化共生社会における総合的な人間理解力
 - 人の心には、人々に共通する心の特徴(一般的原理や法則)と、それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
 - 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わることが理解できる
 - 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
- 根拠に基づく情報発信力
 - 心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
 - 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力
 - 多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
 - さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
- 多様な人々への共感と自尊に基づくコミュニケーション力
 - 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
 - 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
- 自己理解に基づくセルフコントロール力
 - 自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
 - 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
 - 自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
- 集団理解に基づく対人調整力
 - 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
 - 集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらい出ることができる
 - メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
- 多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力
 - 積み重ねてきた学びを統合して、多文化の人びとの幸せや福祉に貢献することができる
 - 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

科目カテゴリ	授業科目	担当者	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
基盤教育科目	こころの科学	高木源	この講義では、生体の行動を観察することによって心のはたらきを研究することの意義を学び、心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。また、特定の分野だけでなく、基礎から応用まで幅広く紹介することを目的とする。本講では、講義形式をとるが、簡単な心理学に関する実験やデモを取り入れることで、講義内容の理解を深めることを目指す。	①心理学の基本的な問いを理解し、代表的な領域の知見を説明できる。 ②心理学的な実験結果を図表をもとに読み解くことができる。 ③様々な心理学の知見を日常生活の問題に結び付けて論述できる。	◎		△			○		
	こころの科学	山口奈緒美	学問としての心理学に初めて触れる学生を対象に、心のはたらきについて心理学が明らかにしてきたことを広く紹介します。全15回の授業を通して、知覚、記憶、感情、学習、動機づけ、人格、発達、社会、臨床心理学を概観し、それぞれの領域が示してきた人間像を紹介し、人間理解に対するひとつの見方を提示します。	1)様々な心理学実験の結果を理解し、人々の心の働きに関連付けて説明することができる。 2)日常の生活における自己や他者の行動の背後にある心理プロセスを論述することができる。	◎					◎		
	こころの科学	中川裕美	はじめて心理学を学ぶ人のために、日常的なテーマについて心理学が何をどこまで明らかにしているのかを説明する。その後、そうした知見の基盤となる基礎的な研究を取り上げる。こころを科学するには、社会的環境、個人差、発達段階などが人にどのような影響を与えるか、様々な視点から複合的に考察する必要がある。本講義では、心理学の各分野(福祉心理、社会心理など)で主要な研究を学ぶことで、自らが科学的な視点を持ち、適応的な社会生活を送れるよう問題解決能力を向上させることを目指す。	1 心理学における科学的な研究手法を説明できる 2 様々な心理学領域の基礎知識を身につけ、それらがどのような場面で応用できるかを提案できる 3 現実場面で生じる問題への対処方法を考察することができる	◎		○			△		
	統計情報を見る目	柴田理瑛	本講義では、統計学的なものの考え方とその初歩的な手法について解説を行います。その際、受講生の皆さんにとって、その内容が様々な情報を論理的に整理し、理解し、新たな事実を発見する際の有効な手段となるよう、身近な事例を取り上げながら講義を行います。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにある統計情報を分析・説明することができる。 2. 平均の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. 相関関係の数値的要約の方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎	○				△
	統計情報を見る目	高木源	本講義では、情報を統計学的に見る方法と基礎的な分析方法について解説を行います。そのために、身近な問題への統計学的な理解の仕方を紹介し、データから新たな発見を見いだすことが理解できるように講義を行います。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにある統計情報を分析・説明することができる。 2. 代表値の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. データ間の関連を検討する方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎	○				△
専門基礎科目	心理学実験	大関信隆、佐藤俊人、重宗弥生、柴田理瑛、中川裕美、中村修、半澤利一、山口奈緒美、吉田綾乃	全体を2つのグループに分けて集団で実験を行う。1つの実験課題を2週間かけて実施・分析し、全6種の実験課題を経験する。その全てについてレポートを作成する。 第1・2回目の授業では実験法に関する概論を、最終回の授業では全体の振り返りを行う。実験科目と担当者は以下のとおりである。 系列学習(重宗弥生)、ミューラー・リヤー錯視(半澤利一)、印象形成(山口奈緒美)、認知的葛藤(大関信隆)、社会的影響(吉田綾乃)、色残効(柴田理瑛)	1)実験法自体の手法や、心理学方法論における実験法の位置づけを説明できる。 2)「独立変数」や「従属変数」などの意味や、「要因操作」や「条件統制」という行為の意義を説明できる。 3)基本的な心理学の実験を自ら計画し実施することができる。 4)実験から得られるデータを適切に収集、処理することができる。 5)実験結果を適切に解釈し、基本的な科学的レポートを作成することができる。	○	◎	◎	△			△	

心理学研究法	吉田綾乃、重宗弥生、柴田理瑛、高木源、中村恵子、山口奈緒美、渡部純夫	心理学研究法は、心理学の方法論について総合的な理解を図るための講義と実習からなる授業である。観察法と調査法、データ分析実習を中心に、心理学的研究の具体的な方法について理解と習得を目指す。特に調査法では調査内容の決定からデータ収集そして分析までの一連の作業をグループワークを取り入れながら実施してもらう。受講生の積極的な取り組みを望む。	1. 観察法・調査法の内容や特徴を説明でき、心理学研究に応用できる。 2. 問題意識に基づいて仮説を立案することができる。 3. 質的データおよび量的データの分析ができる。 4. 研究成果を報告書にまとめることができる。 5. 心理学研究における倫理を守ることができる。 6. 積極的にグループワークに参加し、自他の考えを尊重しながら話し合うことができる。	○	◎	○	○		○	○
心理検査法実習	半澤利一、大関信隆、佐藤俊人、柴田理瑛、高木源、武村尊生、内藤裕子、中村修、三谷聖也、渡部純夫	心理検査法は、心理査定(アセスメント)の基本となる技法であり、心理学の臨床的応用である。この実習においては、まず具体的な方法についての理解を目指し、個人に対するデータの収集から分析までの一連の作業についてワークを取り入れて実施してもらう。同時に心理検査を実施する際の倫理的な配慮についても修得する。	面接法・発達検査・知能検査・投影法・質問紙法・作業検査法それぞれの内容や特徴を説明できる。 得られたデータの分析ができ、結果を報告書にまとめ、研究や個人差の理解に応用できる。 心理検査や研究における倫理を守ることができる。	◎	○	△	◎	○		△
心理学概論	中村修	知覚・感情・学習・記憶・思考・発達・社会・性格・臨床などの各領域における心理学の基礎知識を習得し、「人の心と行動」に関する理解を深める。また、これらの領域に共通する「心理学的な考え方」「科学としての心理学のアプローチ」の理解を目的とする。	心理学の成り立ちのついて概観できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。 心理学で用いられる基礎的用語(基本的概念)を理解した上で、その言葉の日常的用法との違いを説明できる。 講義にて紹介された心理学概念・理論に対して、具体的な行動例を指摘することができる。 心理学を構成する下位領域から、異なる領域の概念を用いて1つの行動を説明することができる。	◎		◎	△	○		△
心理学概論	吉田綾乃	心理学は、行動と心的過程についての科学的学問である。心理学は誰もが持つ「こころ」という身近なものを対象としているために、親しみやすい。しかしながら、同様の理由から科学的な研究を行うことが難しくもある。この講義では、まず始めに科学的な学問としての心理学が、何を問題としているのか、どのような理論的枠組みで、どのような方法論に基づいて研究を行っているのかを概説する。その上で、心理学の様々な領域について、入門的な知識から専門的な知識までを体系的に紹介する。	1.心理学の成り立ちのついて概観できる。 2.心理学の主要分野を概観し、それぞれの研究アプローチの相違について説明できる。 3.心理学で用いられる基礎知識、基本的概念を理解した上で、日常的用法との違いを説明できる。 4.ある特定の行動について、心理学を構成する諸領域の知識を用いて複数の観点から考察できる。	◎		○		○		
福祉心理学	渡部純夫	人々の幸せ追求と生活の質の向上に貢献できる福祉心理学の知識と援助方法を身に付けることで、心理実践力のうち、人間理解力について理解を深める。	・心理学の理論や実践を福祉の現場に入れ込む方法を説明できる。 ・心理学の理論と手法から、一人ひとりの心理面を考慮した心理的援助が、具体的・实际的にどう行われ、どのような効果をあげられたのか説明できる。	◎	○	○	◎	△	◎	◎
福祉心理学	中村恵子	福祉臨床を支える心理学の理論として、ソーシャルワークでの面接技法の土台となった心理学の理論を理解する 心理実践力のうち、主に、人間理解力、問題発見・解決力について理解を深める	①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する ③日常生活と心の健康との関係について理解する ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる	○		○	○			◎
福祉心理学	佐藤俊人	(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)								
発達心理学	中村修	生涯発達心理学は、生涯というスパンでの人の変化を理解しようという分野である。例えば、老人の心理を理解しようとする時には、それまでの期間をどのように生きてきたのかということ踏まえて「つながり、積み重ね」という視点で理解する必要がある。つまり、「発達とはどういうことか」について基本的な理解を図るためには、①(年齢区分でもあらわされる)ある発達段階の特徴とその「発達課題」を理解すること、②認知・感情・自己といった人間機能の諸側面ごとの発達過程における変化の様相を理解すること、が必要となっていく。	誕生から死に至るまで生涯における発達及び各発達段階での特徴について説明できる。 認知機能の発達及び感情・社会性の発達について概説できる。 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について説明できる。 発達障害等非定型発達について基礎的な事項や考え方を概説できる。	◎		○	○	○		△
発達心理学	佐藤俊人	人間は人生の最後の瞬間まで、自分がおかれた環境に適応しながら行動や考え方を変化させることができる。その意味では、生涯にわたり発達を続ける存在である。この講義では、主として人間関係に注目しながら乳児期から老年期までの発達の様相を概観する	人間は、周囲のさまざまな影響を受けながら生涯にわたって発達することを理解し、発達支援に応用することができる。	◎		◎		○		○
臨床心理学概論	渡部純夫	臨床心理学の基本概念を理解し、それに基づいたアセスメント・見立て及び心理療法について深く学ぶ。そして、人間研究がどのように行われているかその特質についても理解する。	1.臨床心理学の基本的考え方を理解し説明できる。 2.人間研究について、どのような視点や注意が必要かについて理解し説明ができる。 3.臨床心理学的視点からの対応における可能性と危険性について理解し説明ができる。	◎	◎	○	◎			

臨床心理学概論	秋田恭子	臨床心理学は人の行動や心を理解する学問である。対人援助職に将来就く人は特に援助する相手を理解し、共感することが求められる。臨床心理学の授業で得られた知識によって、まずは自分の心や行動と照らし合わせてより深く自身自身を理解して理論に基づき説明できるようになること、その上で人はどのように感じ、そして行動するのかということを理論に基づいて説明できるようになることを到達目標とする。	1.臨床心理学の基本的な考え方を理解し、説明できる。2.人間の心の状態や行動をどのような方法でとらえてきたのかを理解し、説明できる。3.年代ごとの特徴および抱える問題を理解し、説明できる。4.悩む人に対してどのようなアプローチが可能かを説明できる。5.対人援助職の倫理的な問題について説明できる。	◎	○	◎	◎	○	○	○
社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	吉田綾乃	なぜ第一印象が重要なのか？どうしてキャッチセールスに引っ掛かり不要なものを買ってしまうのか？グループ作業になると手を抜いてしまう人が増えるのはなぜか？私たちの社会的行動には不可解な現象が多い。これらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けている。社会心理学は、様々なアイディアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようとする学問である。この講義では、できるだけ多くの興味深い研究知見を取り上げながら、私たちの持つ心のメカニズムについて概説する。	1.対人関係ならびに集団における人の意識及び行動に関する心の過程について説明できる。2.人の態度及び行動の変化についての理論や原理について説明できる。3.集団および文化が個人に及ぼす影響について説明できる。	◎		○		○	△	△
感情・人格心理学	三谷聖也	本講義は感情および人格とは何かをテーマに心理学のさまざまな領域を横断的に学んでいく講義科目である。人間の心には普遍性と個別性がある。前半に扱う感情心理学は人間の心ここに共通する普遍性を探究する学問領域であり、後半の人格心理学はその人らしらはどこから来るのかという個性性を探究する学問領域である。本講義を通して人間の心ここそしてその人らしさを理解するためのさまざまな心理学の学説にふれることができる。さらに、感情・人格にかかわる教育、福祉の領域における臨床的問題との関連を学ぶ。	1.感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。2.感情が行動に及ぼす影響について概説できる。3.人格の概念及び形成過程について説明できる。4.人格の類型、特性等について概説できる。5.さまざまな臨床的問題との関連を説明できる。	○			○	◎		
教育心理学概論B	平川昌宏	教育では以下の事柄が重要となります。1)「学び」と「育ち」の関係を理解し、「育ち」に応じた教育、「育ち」を促す教育を行う。2)「学び」のプロセスと意欲について理解し、そのプロセスを支え促す。3)学習者の主体的な学び、学習者同士の学び合いのプロセスを支え促す。4)教師と生徒、生徒集団など「学び」の場での対人関係の特徴を理解し、生徒の「育ち」や「学び」を促す学級集団を形成する。5)自身の教育を評価し、「教える手」としての専門性を高めていく。本講義では、以上の観点に立ちながら教育心理学の知見を概観していきます。	1.「育ち」と「学び」との関係、「育ち」に応じた「学び」の必要性、「育ち」を促す「学び」について説明できる。2.乳幼児期から青年期の各時期における発達の特徴と発達課題、さらには環境移行において生じる問題について説明することができる。3.「学習」および「動機づけ」について学び、「学び」を促す環境や働きかけについて具体的に述べるることができる。4.学習者の主体的な「学び」について説明することができる。また、学習者の主体的な「学び」や学習者同士の学び合いを促す環境・働きかけについて具体的に述べるることができる。5.教育における学級集団作りの必要性、さらには、そこでの教師の役割や影響について説明することができる。6.支援者・教師としての専門性の向上を図る上で重要となる態度や取り組みについて述べるることができる。	◎		○	△	△	△	◎
知覚・認知心理学	重宗弥生	脳は目や耳などの感覚器から情報の入力を受けとり、外界の知覚を行っています(ボトムアップ)。また、脳は知識や記憶をもとに思考や判断を行い、感覚器の調整や、行動としての出力を行っています(トップダウン)。本授業では、感覚器と脳の生理学的・解剖学的な構造を理解してもらった上で、感覚・知覚と認知・思考に関連する様々な心理現象や障害、それらにまつわる心理学研究を紹介することで、ボトムアップからトップダウンまでの脳内での情報処理メカニズムを総体的に理解してもらいます。	①ボトムアップな感覚・知覚の脳内での処理メカニズムを理解し、その知識を活用できる(人の感覚・知覚等の機序及びその障害の理解)	◎		◎				○
学習・言語心理学	中村恵子	人間の行動が学習の結果獲得されているという学習理論を学び、適応を学習行動と結びつけて理解する。不適応(=問題行動)とは、誤学習の結果引き起こされるので、適応支援では、誤学習を解除し、適応行動の学習を操作する。本授業では、そのフォーミュレーションと、解除の方法を講義する。また、言語による学習とその修正についても講義する。	1.学習の基本的な仕組みを説明できる。2.学習行動の操作について説明できる。3.言語による学習について説明できる。	◎		○		○		
心理統計学の基礎	白井秀明	心理学の様々な領域において、研究を進めるうえで統計学の知識が必要となる場合がたいへん多い。本講義では、心理学論文を読んで情報を抽出したり、実験、調査、観察などの計画や結果の分析を行ったりする際に、利用頻度の高い統計学の知識を学習する。基礎編となる本講義では、仮説、帰無仮説、対立仮説、作業仮説などの仮説検定において重要な諸概念の役割を学習しながら研究計画の立て方、仮説検定の論理などについての理解を深めてもらう。	心理統計学の基礎編となる本講義では、研究計画の立て方、仮説検定の論理などについて学び、そのプロセスの中での仮説、帰無仮説、対立仮説、作業仮説などの仮説検定において重要な諸概念の役割を学習しながら、論文を構造的に読解できることを目標とする。	○	○	○				
心理実践活動論	吉田綾乃、清水めぐみ、小林正和、色摩あゆみ	心理実践活動に携わる講師の講話と質疑応答を通して、心理実践の現場にあるさまざまな問題、心理学を活かした取り組みを学び、心理学の理論(知識、技能)と実践のつながりを体験や討論をとらえて理解する。	1.社会における主な心理実践活動の内容を知り、それらの特徴について述べるることができる。2.人間と社会における様々な問題について調べ、心理学と関連づけて述べるることができる。3.心理実践とその基盤となる心理学との関連について述べるることができる。	◎		○	△			△

専門基幹科目 L群	リエゾンゼミⅡ	飯嶋亮子	フィジカルアセスメントの目的・方法・留意点を理解し、問題解決過程にそって学びます。学校感染症の各疾患の特徴や予防法、出席停止期間などの理解を深めるため、グループで疾患について調べ発表を行います。児童生徒の健康課題にはどのような要因・背景があるのか考え支援策を考えます。	1. フィジカルアセスメントの目的・根拠・実践方法が説明できる。 2. 感染症への適切な対応が理解でき、予防策の実践・指導方法が理解できる。 3. 児童生徒の心身の健康課題を捉え、解決に向けた支援について考えることができる。	○		○	○						
	リエゾンゼミⅢ	飯嶋亮子	疾患について事前に調べまとめることによって、疾患への理解を深める。事例を用いてアセスメントの過程と根拠について考え、思考・判断力を養う学習を行います。また健康課題を抱える児童生徒の心身の状態について理解し、支援方法について考察していきます。	1. 学校検診に関連する心臓病・腎臓病・糖尿病について理解し説明できる 2. 急性・慢性疾患を持つ児童生徒への対応について方法や留意点が説明できる 3. 健康課題を抱える児童生徒の心身の状態を理解し、健康課題にそって対応方法について説明できる	○		○	○						
	リエゾンゼミⅣ	飯嶋亮子	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	1. 教員採用試験対策を通し、自学ノートに文章化することができる。 2. 講義・演習を通し、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 3. 自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび論文化することができる。	○	◎	○	○						
	リエゾンゼミⅡ	大関信隆	前期は主に心理学の基礎的概念の復習から始めます。後期は自閉症を中心とする専門書を読みながら、そこに書かれている事柄を心理学的知識に当てはめながら読み進めていきます。これらを通して、発達や精神の病理を、心理学の視点から考察するために必要な基本的知識を養います。	・心理学の基本的な概念(精神機能に関する種々の知識)について正確な知識を持つことができる。 ・発達障害に関する基本的な概念(診断基準や精神機能の特性)について正確な知識を持つことができる。 ・発達障害の行動像を、心理学的概念を用いて説明することができる。 ・発達障害の実像や支援に関する基礎的知識を得ることができる。	◎	△			△				△	
	リエゾンゼミⅢ	大関信隆	・前期は心理学的検査の中から代表的な心理検査の一つを取り上げ、それが作られた過程や関連する文献を読み、検査というものがどのように作られているのかを学びます。また、当該検査の実施方法を学び、実際にデータを取り、その基礎的な解釈方法を学びます。 ・後期は「査定」や「特性理解」というキーワードを用いて、各自でテーマを決め、簡単な研究を行います。研究の流れを会得することを目的とします。これらの学びを通して、心理学独自の対人理解の方法を会得します。	・特定の心理検査について、その概要や実施方法を説明できる。 ・特定の心理検査について、それを実施し基礎的な解釈を行うことができる。 ・心理学の研究論文を自分の力で概ね読むことができる。 ・自分の関心事を心理学的側面から捉えなおし、自ら簡単な研究を計画し実行することができる。	◎	○	△	△				○	△	
	リエゾンゼミⅣ	大関信隆	本演習では各自の持つ心理学的テーマ(心理学的関心事)を中心に、ゼミ論に取り組みすることを課題とします。本課題を通して、物事の問題点を見つけ、必要な情報を選別し、それを使える情報に仕立て、見えてくる結果を伝える技術(力)を身に付けて下さい。	・人間行動の諸問題について、自らテーマを設定し、問題を特定し、その心理学的構造を探る技術を通して行動メカニズムを探究できる。	◎	◎	○	△						○
	リエゾンゼミⅡ	鎌田克信	現在の子どもたちのからだや心に生じている健康上、発達上の問題について、自分たちで資料を集めたり、フィールドワークをしたりしながらその実態を捉え、集団で考えます。その際、グループ毎にテーマを決めて調査を行い、子どもたちの健康上、発達上の課題や問題が生じるようになった要因や背景について分析・考察を行い、その報告を受けて全体で討議を行います。さらに、そのような問題や課題を養護教諭たちがどのように捉え、子どもたちに働きかけてきたのかを実践記録から学び、養護教諭の仕事の重要性について学びます。	1. 多様化している現在の子どもたちのからだや心の現状・事実をしっかりと捉え、様々な問題がどのようにして生じているかについて、その要因・背景を含めて考えることができる。 2. 子どもたちのからだや心に現れている問題について、教育現場ではどのように受け止められ、その解決に向けて支援が行われているか調査し、それに対する考えをもつことができる。 3. フィールドワークやディスカッションを通して、養護教諭の仕事に対する理解を深め、その役割の重要性を理解することができる。	○	◎	○	○	△	○	○			
	リエゾンゼミⅢ	鎌田克信	最初の数回と最後のまとめは教員の方で授業展開するが、途中から3人1組程度で、子どもたちにふさわしい保健教育教材を選定し、教材研究を深め、指導案(授業案)という形式に集約する。さらに、それを他の受講生を生徒と見立てて模擬授業を行い、その授業プロセスを受講生全員で議論する。このようにして、指導の実践力を身につけるとともに、授業観を深め、授業づくりの具体的な力量を身につける。	1. 子どもたちに集団的な保健指導と保健学習(保健の授業)を行うための確かな指導力を身につける。 2. 教材研究の仕方や模擬授業による実践力を身につける。 3. 保健指導や保健学習の模擬授業を行い、集団討議をしながら子どもを見つめたり、健康課題をより深く理解したりする力を養う。	○	◎	◎	○	△	○	○			
	リエゾンゼミⅣ	鎌田克信	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	①教員採用試験対策を通し、自学ノートに文章化することができる。 ②講義・演習を通し、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 ③自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび論文化することができる。	○	◎	◎	○	△	○	◎			
	リエゾンゼミⅡ	佐藤俊人	人間の発達について、発達心理学の枠組みの中で理解し、最終的には個人の興味のある視点から実証的なレポートを作成することを目指す。そのために、前期ではまず心理学の基本的な理論、トピックを再確認し、その上で後期は自分のテーマを見つけ出す。	自分の研究課題を明確にできる。 研究課題に従って、研究実施～プレゼンテーションできる。	◎	◎			◎			◎		
リエゾンゼミⅢ	佐藤俊人	心理に関する演習である。各自の問題意識に基づき、人間の行動様式や考え方について、実験および質問紙調査等により実証的に検討する活動が中心となる。前期は心理学諸理論の再確認と文献研究によって具体的な研究課題を決定し、後期に研究計画～実施する。	心理学的な現象について自分のことばで説明できることに加え、各自の研究課題および仮説を考え、それを確かめるためにデータ収集～分析～論文作成～プレゼンテーションできる	◎	◎			◎			◎			
リエゾンゼミⅣ	佐藤俊人	原則として3年生の演習からの継続である。心理に関する演習である。心理・発達に関して文献研究、実証的研究を行い、その成果をホームページとして発表することが活動の中心である。研究の基本を再確認するとともに、プレゼンテーションができることをめざす。	心理学的な現象について自分のことばで説明できることに加え、各自の研究課題および仮説を考え、それを確かめるためにデータ収集～分析～論文作成～プレゼンテーションできる	◎	◎			◎			◎			

リエゾンゼミⅡ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、既にある心理実験を追試し、その結果のプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究手法について理解し、実施できる能力を習得してもらいます。	①専門を深めるための基礎となる文献や資料を読み解き、疑問点について調べ、考えたことを資料としてまとめ、発表できる ②課題について、心理学の観点から、文献を調べ、調査を行い、多角的・論理的に考え、解決について発表できる	◎	◎					○	△
リエゾンゼミⅢ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、検証したい心理現象についての研究計画を立て、心理実験を行い、その結果のプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究を立案し、遂行できる能力を習得してもらいます。	①専門領域の文献を読み解き、理解したことを資料にまとめあげ身につけることができる ②課題として扱う事項に対して論理的に疑問を持ち、自ら調査・研究することができる ③作成した資料をもとに、わかりやすい報告ができる専門を深めるための基礎となる文献や資料を読み解き、疑問点について調べ、考えたことを資料としてまとめ、発表できる課題について、心理学の観点から、文献を調べ、調査を行い、多角的・論理的に考え、解決について発表できる	◎	◎					○	△
リエゾンゼミⅣ	重宗弥生	2022年より開講									
リエゾンゼミⅡ	柴田理瑛	和文・英文の文献を読み解く。いずれも受講生の興味に応じて選んだものを読んでもらう。読んだ内容をパワーポイント等にまとめ、発表する。読解から発表までを3回かけて行い、計4回行う。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③文献だけでなく、日常生活においても疑問や興味を持ち、それを言葉にすることができる。	◎	◎	△	◎			○	
リエゾンゼミⅢ	柴田理瑛	英語の文献を読み解き、追試実験・調査を行う。いずれも受講生の興味に応じてすすめる。読んだ内容や追試の結果はパワーポイント等にまとめ、発表する。前期は読解から発表までを3回かけて行い、計4回行うこととする。後期は追試実験・調査は原則1回とし、得られた結果を分析し、発表する。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③実験を計画し、仮説を検証することができる。	◎	◎	△	◎			○	
リエゾンゼミⅣ	柴田理瑛	前期は実験・調査の計画を行う。いずれも受講生の興味に応じてすすめる。後期は実験・調査の結果を分析し、レポートにまとめる作業を行い、発表を行う。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③研究を計画し、仮説を検証することができる。	◎	◎	△	◎			○	
リエゾンゼミⅡ	武村尊生	近年、チーム医療が様々な現場で実践され、心理職もチームメンバーの一員と位置づけられることが多くなってきました。心理職が各チームで果たすべき役割を学び、他職種連携と協働の観点から、心理職として求められる姿勢、態度について議論し、理解を深めます。講義等で学んだ内容を、実践力として発揮できるようになる事をめざします。	1. チーム医療の概要を述べることができる。 2. 自分がまとめた内容を適切にまとめ、他者にわかりやすく伝えることができる。 3. 他者に情報を伝える際の、情報のバランスを配慮できるようになる。 4. 心理職以外の関連領域への視野を広げ、他の職種の職務内容の専門性に配慮し、討論できる。	○	◎	○	◎	○	◎	○	○
リエゾンゼミⅢ	武村尊生	総合病院精神科におけるコンサルテーション・リエゾンの視点から、チーム医療における心理職の果たすべき役割について学びます。その過程の中で、心理職として必要な問題解決能力、コミュニケーション能力、組織間調整力、社会貢献能力をどのように獲得していくかについて議論します。学んだ知識を、将来の実践で発揮できることを目指します。	1. チーム医療の特性を理解し、心理専門職としての役割を他職種に説明することができる。 2. 身体疾患が及ぼす心理的問題を理解し、解決に向けて議論することができる。 3. 他職種・他機関と協調しながら、問題解決を行う姿勢・態度を示すことができる。 4. 各テーマを学術的観点から考察、説明、記述することができる。	○	◎	○	○	○	◎	○	○
リエゾンゼミⅣ	武村尊生	事例研究を通じ、様々な分野で実践されている心理学的支援について学ぶ。その中で、各分野での心理専門職の役割について理解を深める。各自の関心あるテーマに基づき、調査・研究を行う。研究成果は適宜発表を行い、進捗等について他の演習参加者と検討を行う。建設的なディスカッションを通じ、研究をはじめとした専門的共同作業に必要な姿勢を学ぶ。	1. 臨床心理学的な研究方法を用いて、自ら研究テーマを設定できる。 2. 研究から得た結果を、複数の視点から多角的に考察することができる。 3. 自らの研究の効用と限界が説明できる。 4. 広い分野で用いられている心理学的支援法について、非専門家にも平易な言葉を用いて説明できる。 5. 多職種連携を実践するため、その場に適切な姿勢・態度を示すことができる。	○	◎	◎	○	○	◎	○	○
リエゾンゼミⅡ	内藤裕子	養護教諭の職務の実際、とくに保健管理の健康診断、学校環境衛生、疾病の予防について、法的根拠に基づいた具体的方法を学びます。	健康診断、学校環境衛生の法的根拠に基づいた具体的方法について調べ、レジュメを作成し、さらにパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることができる。また、自ら技術を習得し、他者にデモンストレーションすることができる。		○			△			
リエゾンゼミⅢ	内藤裕子	保健室に入室する子どもへの対応についてロールプレイとディスカッションを重ね、子どもの心と体を見る目、判断力、処置技術、コミュニケーション能力、学校組織内の動き方を身につけ、一連の流れの中で「養護」の意味を考えます。	提示された仮想場面において、適切なアセスメントと場面对応(処置)のロールプレイングをすることができる。	△		○				△	
リエゾンゼミⅣ	内藤裕子	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	①教員採用試験対策を通じ、自学ノートに文章化することができる。 ②講義・演習を通じ、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 ③自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび論文化することができる。	△	○					△	

リエゾンゼミⅡ	中村修	文献講読とプレゼンテーションを繰り返し行っていく。まず読解について、前期は「心理学を変えた40の研究」という書籍で紹介されている心理学の古典的・代表的な研究のいくつかについて、後期は心理学系学会誌に掲載された論文を読解する。いずれも受講生の興味に応じて選んだものを読んでもらう。プレゼンテーションでは、読解した内容を他の受講生に的確に伝えて共通できるように、資料の作成および発表をくり返し行ってもらおう。グループディスカッションを通じて理解の深化、発表技法の共有を図るので、能動的に参加してほしい。	理解を進めるための補足資料を自ら探す習慣及び探す方法を身につける 文献を読解し理解したことをレジュメ形式等にまとめなおして他者に伝えることができる 他者の発表に対し、その論旨にのっとった上での発問ができる	◎	◎	○	◎	◎	○	△
リエゾンゼミⅢ	中村修	前期は健康心理学領域で注目されているポジティブ心理学に関する文献講読を行う。ポジティブ心理学とは何かに迫ることを目的とし、特に注目されている要因を理解することを目指す。グループディスカッションにて理解の深化、共通化を図るので能動的に参加してほしい。後期は前期で理解した要因をもとにデータをとって研究を行う。同時に、心理学実験・研究法で学んだ心理学研究の「礼儀作法」を実践してもらおう場とする。ポジティブという用語で連想することは様々だろうが、単に「前向き」であればいいのかどうか、一緒に考えてほしい。	文献で述べられている内容を正しく理解した上で、論理的かつ批判的に自己の意見を述べる ことができる データ収集から分析までの一連の手順を主体的に行うことができる 心理学での論文記述形式にならって自己の研究を記述することができる	◎	◎	◎	○	△	◎	○
リエゾンゼミⅣ	中村修	「福祉大で心理学を学んだ」集大成になるものをまとめてもらうことを目的とする。具体的には、発達心理学・健康心理学の領域から受講生が「各自で」設定したテーマに基づいて研究(調査研究、文献研究)を実施してもらおう。前期はテーマ確定とテーマにあわせた研究法の確立。後期には研究をしあげると同時に、明らかにしたことを効果的にプレゼンできるようにまとめてもらう。なお、テーマは個別であるが、研究を進める作業においてはグループ活動、グループディスカッションを行うので、他の受講生のテーマにも関心をもって積極的に参加してほしい。	自ら設定した問いに対して的確な研究計画をたてる ことができる。 上記の研究計画を基本的に独力ですすめることができる。 得られた知見を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技法を自ら選択・工夫できる。	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
リエゾンゼミⅡ	中村恵子	学校カウンセリングについて実践的に学ぶ 学校現場で起きている問題について理解し、実践的に解決方法を学ぶ 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力、社会貢献力を身につける	①発達段階ごとの学校適応を説明することができる。 ②不適応を引き起こす悪循環を構造的に説明できる ③悪循環の解除について説明できる	○	○	○	○	○	◎	◎
リエゾンゼミⅢ	中村恵子	学校カウンセリングについて実践的に学ぶ 学校現場で起きている問題について理解し、実践的に解決方法を学ぶ 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力、社会貢献力を身につける	①発達段階ごとの学校適応を説明することができる。 ②不適応を引き起こす悪循環を構造的に説明できる ③悪循環の解除について説明できる	○	○	◎	○	○	○	◎
リエゾンゼミⅣ	中村恵子	自分自身の関心や適性と社会や各種職域を結びつけ、その要請に対して福祉・心理・社会の多次元に渡る広い視点を持って対応できることを目指す 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力を身につける	①個性を理解し、自分なりのキャリアデザインを策定する ②自分自身と向き合い、キャリア形成をする ③キャリアデザインについて仲間と分かち合いながらアイデンティティを形成する	○		○		◎		
リエゾンゼミⅡ	半澤利一	犯罪心理学は何をどう捉え、犯罪や非行をどう説明し、処遇をどう考えてきたのかをテキストに沿って学ぶことを基本にししながら、関連した文献や重大事件を取り上げて読み込む。また、実務家をゲストスピーカーとして招くことにより、犯罪心理学や臨床心理学の知見が非行臨床の現場でどのように活用されるかを知り、理解の浸透を図る。	①非行や犯罪という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 ②現象を分析して抽象的に再構成し、的確な言葉で表現できる。	◎		○	○			◎
リエゾンゼミⅢ	半澤利一	犯罪行為を社会的文脈で捉え、犯罪心理学は何をどう解析してきたかを、さまざまな文献を取り上げて読み込むことで知る。主に実務的な課題をテーマとして取り上げ、犯罪や非行行動の理解や処遇法及び家族臨床の方法論を学ぶ。理論を適用する工夫を学ぶため、担当者による課題の発表や討議、ロールプレイなどの方法を用いる。さらに実務家をゲストスピーカーとして招いて聴講することで、犯罪心理学や家族心理学、臨床心理学の知見が実際の現場でどのように活用されるかを知り、理解の浸透を図る。	①犯罪や非行について行動化を伴った社会的 不適応として捉え、形成要因を分析して対応や 処遇の方策を策定できる。 ②家庭内紛争の類型や発生の機序、構造を 理解し、紛争の解決を見立てることができる。 ③課題を明確にして必要な情報を収集して分 析し、課題処理に見合う形に編集して効果的に 表現できる。	◎		○	○			◎
リエゾンゼミⅣ	半澤利一	犯罪行為を社会的文脈で捉え、犯罪心理学は何をどう解析し、対処してきたかを、さまざまな文献を取り上げて読み込む。前期は主に犯罪行動を類型別に学び、後期は主に家庭内紛争についての理解を踏まえた支援法、介入法について学ぶ。適宜実務家をゲストスピーカーとして招いて聴講することで、犯罪心理学や関係諸科学の知見が臨床の現場でどのように活用されるかを理解し、応用力を高める。また、卒業後の社会人生活を見据え、実用的なプレゼンテーションやマネジメント、職場適応の基本を身につける。	①犯罪や非行について行動化を伴った社会的 不適応として捉え、形成要因を分析して対応や 処遇の方策を策定できる。 ②家庭内紛争の類型や発生の機序や構造を 理解し、紛争の解決を見立てることができる。 ③課題を明確にして必要な情報を収集して分 析し、課題処理に見合う形に編集して効果的に 表現できる。	◎		○	○			◎
リエゾンゼミⅡ	三谷聖也	前期はカウンセリングについての基本姿勢と主要理論についての講義を中心に行う。後期は児童虐待、精神疾患、発達障害のテーマを取りあげ理解を深める。これらの前期後期の取り組みを通して、関心のある心理学の領域や関心のある心理支援の領域を見出すことができるとともに、自身の研究テーマを見つけられるようになる。	カウンセリングの主要理論を説明できる。近年社会的関心が高まっている児童虐待、精神疾患、発達障害のテーマを取りあげ理解を深める。これらのテーマについて主体的に調べる ことにより、今後取り組むべき研究テーマを見 つけることができる。						◎	◎

リエゾンゼミⅣ	渡部純夫	ロールプレイを通して、言語的・非言語的アプローチのポイントを身につける。 ケースを作成することで、人間の心理的世界の複雑さを理解する。 援助が的確に行うことができるように、経験をつんでいく。 自分の心理的動きについても理解を図る。 グループごとに、対応についてのディスカッションを行う。	心理的対人援助の方法を理解して説明できる。 クライアントの心理的動きを見て、面接の流れに応じて対応する仕方を説明できる。	◎	○	◎	○	○	○	○
卒業論文	大関信隆	・本講義では各自の持つ心理学的テーマ(心理学的な関心事)を中心に、卒業論文に取り組むことを課題とします。本課題を通して、物事の問題点を見つけ、必要な情報を選別し、それを使える情報に仕立て、見えてくる結果を伝える技術(力)を身に付けて下さい。 ・実験法を用いた研究を希望しますが、他の手法を用いた研究であっても大歓迎です。4年間の集大成として、最後まで書き上げてみて下さい。	・心理学的方法論に則った研究を行い、卒業論文を書き上げる。 ・人間行動の諸問題について、自らテーマを設定し、問題を特定し、その心理学的構造を探る技術を通して行動メカニズムを自らの力で探究できる。	◎	◎	◎	○			○
卒業論文	柴田理瑛	卒業論文では、これまで学んだ心理学的知見と心理学的研究法を踏まえて一つのテーマについて研究することで、統合的創造的学修を深める。教員の助言指導を受けながら、テーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察する。福祉心理学の“福祉”はすべての人の幸せ、生きがい、自己実現をめざす“well-being”を意味している。このことを念頭に実験・調査を計画すること。	1. 心理学的な課題を設定できる。 2. 心理学の文献をレビューできる。 3. 研究の目的、仮説を立てることができる。 4. 調査・実験を計画し、実施できる。 5. データを分析し、結果をまとめることができる。 6. 結果について、考察できる。 7. 論文を作成できる。	○	◎	◎	○			◎
卒業論文	武村尊生	卒業論文では、これまで学んだ心理学的知見と心理学的研究法を踏まえて一つのテーマについて研究することで、統合的創造的学修の経験を持ち、深める。教員の助言指導を受けながらテーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察する。テーマの設定にあたっては、福祉心理学にかなうものが望まれる。福祉心理学の“福祉”はすべての人の幸せ、生きがい、自己表現をめざす“well-being”を意味している。考察も、仮説の検討及び予防的観点や援助的・治療的観点について示唆を与えることが望まれる。	1. 心理学的な課題を設定できる。 2. 心理学の文献をレビューできる。 3. 研究の目的、仮説を立てることができる。 4. 調査を企画し、質問紙を作成し、調査を実施できる。 5. データを分析し、結果をまとめることができる。 6. 結果について、考察できる。 7. 論文として書くことができる。	○	◎	◎				◎
卒業論文	中村修	卒業論文では、これまで学んだ心理学的知見と心理学的研究法を踏まえて一つのテーマについて研究することで、統合的創造的学修を深める。教員の助言指導を受けながら、テーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察する。テーマの設定にあたっては、特に発達心理学領域、健康心理学領域から選択されることが望ましい。また、福祉心理学にかなうものも望まれる。福祉心理学の“福祉”はすべての人の幸せ、生きがい、自己実現をめざす“well-being”を意味している。	心理学的な課題を設定できる。 心理学の文献をレビューできる。 研究の目的、仮説を立てることができる。 調査を企画し、質問紙を作成し、調査を実施できる。 データを分析し、結果をまとめることができる。 結果について、考察できる。 論文として書くことができる。	△	◎	◎	△	△		◎
卒業論文	三谷聖也	文献を通して家族や親密な集団における諸問題から研究テーマを選定し、家族心理学およびコミュニケーションに関する研究手法を用いた研究計画を立てていく。実際に実験や調査をあるにあたっては研究倫理について十分に理解し実践をする。研究によって得られたデータは統計的な解析を行い、結果を図表にまとめていく。研究知見の効用と限界、臨床への意義等を考察する。最終的に論文として文章化し、第三者にプレゼンすることができる。	文献を通して家族や親密な集団における諸問題から研究テーマを見出すことができる。家族心理学およびコミュニケーションに関する研究手法を用いて自ら設定した問題を解明することができる。研究倫理について理解し実践することができる。研究知見の効用と限界を考察できる。研究を文章としてまとめ第三者にプレゼンすることができる。		◎	◎				○
卒業論文	吉田綾乃	広く社会心理学に関連するテーマを各自が設定し、そのテーマに沿って実験あるいは調査研究を行う。研究の実践を通して、社会心理学の基礎・応用知識を習得することを目指す。また、個人的・社会的な問題に対して社会心理学の研究手法を用いて検討するスキルを身に付けることを目指す。	1.社会心理学的な研究アプローチを用いて、自ら設定した問題に対して科学的な知見を抽出することができる。 2.自らが得た研究知見の効用と限界について考察することができる。 3.自らが得た研究知見を現実の人間行動に照らし合わせながら、第三者に効果的にプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎	○	○	○	◎
卒業論文	渡部純夫	指導教員の助言の下、テーマを決定し、先行研究に当たり、仮説を立て、調査を立案・実施し結果の分析を行い、考察しながら論文をまとめる。テーマは、福祉心理学に見合ったもので、一人ひとりの幸せへの貢献と、生きがい、自己実現のための「well-being」と運動していることが望	心理学的問題を見つけることができる。 心理学の文献をレビューできる。 研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。 仮説を立てることができる。 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。 結果について統計処理ができる。 考察を行い、論文としてまとめることができる。	◎	○	◎	○	○	○	○
卒業論文	山口奈緒美	卒業論文は、現実社会で生じている問題を心理学的に分析して自分なりの仮説をみつけ、心理学的な方法論ののちでその真偽を確かめ、社会的問題の解決に役立つように結果を考察したものをまとめたものです。この完成のためには、文献レビュー、仮説構築、研究計画の立案、研究の実施、データ分析とまとめといった一連の作業が必要です。この演習では、これらを行います。	1) 現実に生じている問題を社会心理学の概念を用いて説明することができる 2) 設定課題に関する文献をレビューし、問題点や不明確な点を指摘することができる 3) 文献レビューを通して理論的に仮説を構築することができる 4) 仮説を検討するために適切な調査(実験)を計画・実施することができる 5) 調査(実験)で得られた数的データに対して適切な分析を施すことができる 6) 個々の分析結果を総合的に解釈することができる 7) 分析結果について過不足なく考察が行える 8) 当初の問題意識に立ち返って結果を考察することができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

専門基幹科目 A群	健康・医療心理学	中村修	健康を支援する取り組みにおいては「不健康状態の解消」だけが目標になるのではなく、近年では「今ある健康を維持する」あるいは「ますます健康になる」という目標が重視されてきている。本講義では「健康である者はなぜ健康なのか」という問いのもと、心理学の新たな分野である健康心理学の知見とその活用について詳述していく。また、健康を支援する実際の現場での心理学の立場から指摘される課題と支援について、医療・保健現場・災害時支援の各領域ごとに整理する。	健康心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる ストレスを心身の疾病の関係を説明できる 自己のライフスタイルの形成・修正に習得した理論/概念を役立てることができる 医療現場・保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる 災害時等に必要な心理支援を説明できる	◎		○	△	○	△	○	
	健康教育概論	菊池陽子	私たちは常に健康でありたいと望むが、その一方で「時間がない」とか「めんどろである」など様々な理由により、適切な健康行動を取っていないことが多い。この授業では、健康心理学から得られた「健康の維持、増進、病気の予防」に関する多くの知見をいかにして広め、実践してもらえるかを考えていく。また、健康を絶対的に捉えるのではなく、相対的に理解すること、すなわち、人生の様々なライフサイクルや、その時、その人が置かれた状況で、健康観が異なることを理解する。	①健康を相対的にとらえることが必要な理由を説明できる ②健康なライフスタイルについて具体的に説明できる ③自分に合った健康なライフスタイルを実践する ④健康教育の計画を立てられる	◎	◎	○	△			△	
	現代の精神保健の課題と支援 I		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)									
	現代の精神保健の課題と支援 II		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)									
	心理学統計法	白井秀明	心理学の様々な領域において、研究を進めるうえで統計学の知識が必要となる場合がたいへん多い。本講義では、心理学論文を読んで情報を抽出したり、実験、調査、観察などの計画や結果の分析を行ったりする際に、利用頻度の高い統計学の知識を学習する。また、学習した知識の実践的利用可能性を高めるべく、統計解析ソフトによる実習も行う。応用編となる本講義では、利用頻度の高い統計的検定をいくつかピックアップし、統計解析ソフトの操作手順や結果の読み方・記述の仕方など、コンピュータを使って実践的に学習する。さらに、多変量解析の初歩についても触れる予定である。	1)心理学の論文を構造的に読解できる 2)研究目的にあった実験計画、統計的手法をつかって、心理学の論文、レポートを作成できる	○	○	○				○	
	社会・集団・家族心理学(家族心理学)	三谷聖也	家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点(家族システム理論)を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学ぶ。また、家族が直面する危機とその対応について事例を交えて解説する。	1)家族をシステムとして説明することができる 2)家族が個人に及ぼす影響を説明することができる 3)家族に生じる危機、援助のポイントを説明することができる	◎		○				○	
	応用認知心理学	柴田理瑛	この講義では、生体の行動を観察することによって心のはたらきを研究することの意義を学び、認知心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。また、特定の分野だけでなく、基礎から応用まで幅広く紹介することを目的とする。本講では、講義形式をとるが、簡単な認知心理学に関する実験やデモを取り入れることで、講義内容の理解を深めることを目指す。	1. 認知の基本的な仕組みについて理解する。 2. 実験結果を図表をもとに読み解くことができる。	◎		○		○			
	乳幼児心理学		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)									
	児童青年心理学	半澤利一	生涯発達心理学の中で、児童期と青年期における主要な精神機能の発達の特徴、発達にかかわる要因やそのメカニズムを論じる。児童期・青年期で示される種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、歴史的な意味づけの変遷なども取り上げ、環境との関わりの中で自己意識や精神機能がどのように変化し、安定した自己形成へと統合して行くのかをたどって行く。	1. 児童期と青年期の過程や発達課題が意味することを、具体的な行動と関連付けて論じることができる。 2. 得られた知識に基づいて、自分のこれまでの体験を意味づけて整理できる。	◎		○		◎	○		
	老年心理学 I		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)									
	司法・犯罪心理学	半澤利一	犯罪・非行とは何か、どう理解して処遇して行くのかを、実務家の視点で理解する。併せて犯罪・非行の時代的推移や現代型非行の特徴、捜査や裁判、処遇を担う機関の機能や連携、被害者心理についての理解を深める。これらの学習が福祉や教育の現場にも応用できるよう、理論に関連した事例を引用して解き明かす。	1. 非行や犯罪という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 2. 再犯を抑制して社会適応を促す処遇方法を判断し、更正に向けた心理的支援の基本的技法を実践できる。 3. 離婚や子をめぐめる争いなどの家庭内紛争の構造を説明できる。	◎		○		○		◎	
	産業・組織心理学	山口奈緒美、末富美貴	産業心理学とは、産業に関連する生活場面における人々の行動を、個人的・環境的諸条件との関連において研究する学問です。商品やサービスを提供する側の心理と、それらを消費する側の心理の双方から、今日の産業に携わる人々の心理を探ります。また、労働者が抱える問題の解決に向けて支援する心理的取り組みについても学びます。	1)組織成員の心理について、ワークモチベーション、キャリア発達、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる 2)組織成員が抱えるワークモチベーション、キャリア形成、ジョブストレスに関する悩みに対する援助方法を組み立てることができる 3)企業組織における人々の心理について、意思決定や公正という観点から説明できる 4)消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる	◎					◎	◎	
心理的アセスメント I	清水めぐみ	臨床心理学の一領域を構成する心理的アセスメントの概要を、特に①目的と倫理、②観点と展開、③方法(観察、面接及び心理検査)それぞれの特徴と限界、④適切な記録及び報告、の4点を柱として理解することを目指す。心理的アセスメントにおいて重要な心理検査についての知識を得るにとどまらず、心理的アセスメントと臨床心理学的対人援助の関連を理解し、実践に生かすことのできる心理的アセスメントの視点を養う。	1. 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。 2. 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。 3. 心理的アセスメントの方法(種類、成り立ち、特徴及び限界)を記述できる。 4. 心理的アセスメントにおける適切な記録及び報告の趣旨を説明できる。	◎	○	○	○	○	○	○		

	心理的アセスメントⅡ	大関信隆	心理学的援助においては、対象者が示す行動を多面的に捉え、そこから関わりの方略を見出すことが必要となります。その一つの方法として、心理学では心理検査というツールを用います。本講義では、心理的アセスメントに用いられる各種手法について検査別に概説しその知識を深めます。また臨床場面で頻りに用いられる知能検査・発達検査について、その実施方法などを、実際に検査道具を用いながら習得します。	1)検査法を用いたアセスメントの流れについて説明できる。2)「人格検査」「知能検査」それぞれの特徴について具体的に説明できる。3)対象者に合わせた検査の選択を行う必要性について説明できる。4)適切な検査報告書がどのようなものか説明できる。	◎	◎	◎				◎
	公認心理師の職責	菊池陽子、秋田恭子、日笠真理子、半澤利一	この授業は、公認心理師を目指す人のための導入的科目である。公認心理師が、国民から何を期待されている、それに真摯に応えていくためにはどうあるべきかを考えていく。はじめに、寄って立つ所の法律を通して、公認心理師の役割や法的責務などを理解し、さまざまな分野で具体的にどのように活動しているかを学ぶ。これらの学びが、すべて、「国民の心の健康の保持増進に寄与する」ことにつながっていくことを理解する。	1.公認心理師法の内容を説明できる。 2.公認心理師の役割、責任、倫理、各分野での業務について説明できる。 3.守秘義務と要支援者の安全確保の関係など葛藤の状況を理解し考えることができる。 4.連携やチームアプローチについて説明できる。 5.公認心理師の資質向上の責務や生涯学習の意義について説明できる。	◎		◎	○			◎
	神経・生理心理学	重宗弥生	神経心理学は、脳が損傷された場合に起こる知覚や行動の障害から、その障害された認知機能のメカニズムや対応する脳領域を明らかにする学問であり、神経生理学は、生理的な反応から知覚や認知の処理メカニズムを明らかにする学問です。本授業では、脳の生理学的・解剖学的な構造を理解した上で、スライドやビデオ映像による症例の紹介、心理検査の実施、コメントシートへの回答を通して、脳の損傷によって起こる障害や生理的反応について理解してもらいます。	①脳の生理学的・解剖学的な構造を理解し、その知識を活用できる(脳神経系の構造及び機能の理解) ②脳を基盤とする認知機能の機序を理解し、その知識を活用できる(記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解) ③脳領域の損傷や疾患によってみられる障害を理解し、その知識を活用できる(高次脳機能障害の概要の理解)	◎		◎				○
	障害者・障害児心理学	大関信隆	この授業では、身体障害や知的障害、精神障害などの障害を持ちながら生活をしている人々の心理・行動面に関する理解を深めることが目的です。それぞれの障害像はどのようなものなのか、それにより引き起こされる心理・行動的諸問題はなにか、どのような社会的課題があり、どのような支援が可能なのかについて、学びを深められればと思います。各種障害に対する基本的な考え方や一般的なメカニズム、状態像や心理社会的支援に関する内容などが含まれます。	1)身体障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。 2)知的障害や発達障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。 3)精神障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。 4)障害を捉えるモデルを説明でき、その受容過程について考察できる。 5)精神疾患や発達の障害に対する心理社会的な援助方略について説明できる。	◎	△	○	◎			◎
	教育・学校心理学	秋田恭子	学校臨床心理学とは何かおよび学校心理学における問題について理解を深める。小学校、中学校、高校のスクールカウンセラーの役割、教育相談室や適応指導室における心理的役割や学生相談における相談員の役割について学ぶ。	学校臨床心理学とは何かを説明できる。教育領域において、心理学的視点からどうとらえるかを説明でき、その視点を持った臨床心理士や公認心理師などがどのような役割を担えるかについて説明できる。	◎			◎		◎	○
	心理調査概論	中川裕美	本講義は認定心理士(心理調査)に必要な科目である。心理調査を実施するための基本的な事項や能力を獲得し、心理学的方法論を社会で活用できるようになる水準を目指していく。まず心理調査の基本的考えと歴史をおさえ、心理統計の基礎的な知識を習得する。仮説検証法や有意水準などさらに調査、実験、観察、面接、尺度構成、検査の方法論を実践的に学ぶ。さらに心理調査を実践するうえでの研究倫理であるインフォームドコンセントや個人情報保護の感覚を養っていく。	調査(実験)対象について、自分の力で、問題点を探り、目的を設定し、調査あるいは実験を計画し、実施し、得られた結果を解析し、考察できるようになること。心理調査を実施するうえでの研究倫理を身に付けること。		◎	◎			○	
	人間関係論	吉田綾乃	人は常に、自己を他者に示しながら、他者を理解し特定の関係を築こうとしている。多くの研究から、このような人間関係の形成や進展、崩壊のプロセスには規則性があることが明らかになっている。この講義では、身近な社会的出来事や問題を取り上げながら、「なぜ」それらの事象が生じるのか、より良い人間関係を形成するためにはどうすればよいのかについて理論的・客観的に考えるための基礎的な理論や研究知見を紹介する。	1.人間関係の重要性を知り、人間関係における社会的・心理学的な規則性を説明できる。 2.理論や先行研究に基づいて、現実の人間関係のあり方や社会的現象を再考することができる。 3.客観的に自分や他者を捉えることで、自分の考え方や感情の仕組み・原因について理解することができる。	◎		○	○	◎		
専門基幹科目B群	疾病予防及び看護学	飯嶋亮子	ライフサイクルにおける人間の成長過程と健康的な環境づくりの重要性について学び、正常な成長発達や健康を保持増進するための支援策について理解を深める。疾病予防の観点から、疾病の理解とその管理、生活習慣病、学校感染症の特色と対応策について学習する。	1.発達段階の特性と健康課題について説明できる。 2.各疾病の病態とともに、発症要因、予防方法、発生時の対応などについて理解し説明できる。 3.感染症の分類、各感染症の発症要因や特徴が説明できる。 4.感染防御の目的・方法・留意点及び発生時の対応について説明できる	◎	○	○	○	○		
	学校保健	鎌田克信	学校保健の概要について理解すると共に、次の3点について考えを深めていきます。1つ目は、わが国の学校保健の歩みと現状について理解し、これからの学校保健の課題と展望について学ぶことです。2つ目は、今日の児童・生徒の抱える心身の健康状態とその背景及び課題について理解することです。3つ目は、そうした子どもたちの健康問題に対して、学校や養護教諭がどのように取り組み、実践を重ねてきているか、その概要を理解することです。	1.現代における児童・生徒の心身の健康状況について理解することができる。 2.児童・生徒の心身の健康課題に対し、学校・教師にどのような取組が求められているか考えることができる。 3.様々な立場の人と連携し、児童・生徒の心身の健康を守り、その発達を保障する養護教諭の役割を自覚することができる。	◎		◎	○		○	
	養護概説	鎌田克信	養護教諭は、他国には見られない職種です。日本の養護教諭の歴史に学びながら、養護教諭が築いてきた職務の独自性と特徴を理解していきます。同時に、学校保健全般の中で養護教諭が果たす役割や保健室の機能についての理解を深め、より具体的にその職務と機能を把握できるようにします。とりわけ、教育職として位置づいている日本の養護教諭に求められる役割や多くの人々と連携して子どもたちの成長・発達を支える際に果たすコーディネーター的役割の大切さについて、養護教諭の実践に学びながら理解を深めていきます。	1.養護教諭に求められる役割や学校組織内における養護教諭の職務について、法規や制度と関連させながらその概要について理解する。 2.養護教諭の積み重ねてきた実践に学びながら、「養護教諭の果たす役割とは何か」「保健室の教育機能・役割とは何か」を考え、その職務と学校における役割、子どもの健康と発達に果たす任務の基本について理解する。 3.様々な立場の人と連携し、子どもたちの心身の健康を守り、その発達を保障する養護教諭の役割を自覚することができる。	◎		◎	○			○

	健康心理カウンセリング実習	中村修、大関信隆、菊池陽子、内藤裕子、三谷聖也、渡部純夫	健康心理アセスメントと健康心理カウンセリングに関する実習を行う。アセスメントにおいては、健康心理相談や介入、治療効果の測定等に用いる諸技法についての実習を含む。カウンセリングにおいては、カウンセリングの基本的技法を理解した上で、認知行動カウンセリング、交流分析、自律訓練法、プリーフセラピー等の技法を組み合わせ介入・指導できるための実習を含む。	取り上げられる各技法における基本的手法を使用することができる。 支援的関わりにおける自己の癖や得手・不得手を意識化し、受容することができる。 実践において必要とされる専門性を実習体験を用いて説明できる。	○	△	◎	◎	○	◎	○
	精神疾患とその治療		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)								
	心理学的支援法Ⅰ	秋田恭子	悩んでいる人を援助する方法には、様々なアプローチがある。その歴史をたどりながら、どのようなアプローチがあるのかについて学ぶ。	①心理療法とは何かを説明できる ②代表的な心理療法(精神分析、認知行動療法、クライエント中心療法)の違いを説明できる ③個人、集団、子ども、大人などの対象の違いによる心理療法を説明できる。	◎			◎			◎
	心理学的支援法Ⅱ	武村尊生	心理学的支援法として心理療法を実施するにあたっての倫理、心理療法の専門家としての基本的態度、治療構造、治療過程といった、心理療法の実践について扱う。 あわせて、プライバシーへの配慮、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学ぶ。	1. 心理療法を含む心理学的支援法の実践的知識を習得し、将来実施するときに使用できる。 2. 心理療法を含む心理学的支援法の実施者として必要な、クライエントへの態度について討論できる。	○	○	○	◎	△	○	◎
	心理演習	菊池陽子、清水めぐみ	具体的な場面を想定したロールプレイングや事例検討を通じて、公認心理師の4業務について体験する。ここでは、知識を知的に理解するだけでなく「心理実習」において各分野の施設で利用者や関係者とふれ合うための基本的な技能を身につける体験学習を行い、各分野の施設における実践を見学する際の意欲や関心を深めるために必要な情動を含む学習である。	次の(ア)から(オ)の事項について、具体的な場面を想定した適切な役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げ議論することができる。 (ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域支援 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	○		○	◎			○
	心理実習	菊池陽子、大関信隆、清水めぐみ、三谷聖也	公認心理師の4つの業務を行う能力を養う為に学部において設定されている教育課程の中でも、心理実習は非常に重要な役割を担っている。心理実習を履修する学生は、この実習を通じて、学外の心理援助の現場に初めて触れることになる。授業には、実習に加えて、実習の事前・事後の指導やケースカンファレンスの参加、事例検討会なども含まれる。	1. 公認心理師としての職責を自覚する 2. 問題解決能力と生涯学習に向けた態度を身につける 3. 多職種連携・地域連携の意義を理解する 4. 心理状態の観察及び結果の分析をする 5. 心理に関する支援の意義について説明できる	○	○	○	◎	○	◎	◎
	人体の構造と機能および疾病	飯嶋亮子、内藤裕子、鎌田克信	心理職がチーム医療等の中で多職種と協働し心理的支援にあたるには、支援が必要とされる疾病や障害の成り立ち、その理解のための体のしくみ、精神面への影響、そして医療やケアの現状について基本的な知識を身につけておく必要がある。本講義ではオムニバスの講義形式により基本的な知識を学ぶが、各講義を通じ、対象は疾病や障害ではなく「人」であることを念頭に置き、心理職の役割とは何かを考えながら受講すること。緩和ケアチームの現職の公認心理師をゲストティーチャーとして招き講話をして頂く予定。	・疾病や障害の成り立ち、その理解に必要な身体構造や機能について説明できる。 ・心理的支援が必要な対象と、心理職としての役割を論じることができる。	○		◎		△		△
	関係行政論	清水めぐみ	公認心理師の活動と関わる法令等を始めとした社会制度について学ぶ。特に、具体的な心理学的支援場面を想定して、かかる心理学的支援において不可欠の基盤となる代表的な法律・制度を概観する。	1. 公認心理師の活動に関わる保健医療分野に関する制度について説明できる。 2. 公認心理師の活動に関わる福祉分野に関する制度について説明できる。 3. 公認心理師の活動に関わる教育分野に関する制度について説明できる。 4. 公認心理師の活動に関わる司法・犯罪分野に関する制度について説明できる。 5. 公認心理師の活動に関わる産業・労働分野に関する制度について説明できる。	◎		◎	○	○	○	○
専門発展科目B群	健康相談活動(理論及び方法)	内藤裕子	養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について学びます。心と体の両面に視点をおいた「見立て」「支援」の方法および流れを学びます。また、この授業を通じ「養護教諭の行う健康相談の独自性とは何か」について考え、各自の答えを見つけます。	1. 養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について説明できる。 2. 心と体の両面に視点をおいた「見立て」「支援」の方法および流れについて説明できる。 3. 養護教諭の行う健康相談の独自性について各自の考えを文章化できる。	◎		◎	◎	◎	○	◎
	健康相談	内藤裕子	保健室には心因性の様々な症状を訴える子どもが来室し、その中には養護教諭の健康相談の範囲を超えた支援を求められるケースもある。養護教諭の健康相談は他の職員や専門機関につなぐ役割も担っているといえる。しかし「つなぐ」には、どのような理由でどこにつなごうとするのか、心身の状態と背景にある問題を見極める必要がある。そこで、本講義では心理的な見立てを中心に理解を深め、見たてを生かした関わり方およびつなぐ方の実際について事例とロールプレイを通して学んでいく。自傷や母子分離がテーマとなる架空事例を用いる。	1. 事例を提示された際に、情報を整理して見立てを行い、養護教諭としての対応や連携、配慮点について文章化することができる。 2. 自分を尊重した話し合いを通して積極的に問題解決やロールプレイに取り組むことができる。	◎		◎		○	○	○

